



とびっくす

No.127

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>)

令和7年(2025年)の漁海況トピック

本号では、令和7年(2025年)を振り返り、この1年の漁海況トピックを特集します。

冬季～春季の低水温(2月～5月)と夏季以降の高水温(8月～10月)

令和7年を振り返ると、春季は肌寒く、夏季は非常に暑い年でした。気温を直に感じる陸上とは環境が異なる海の中ではどうだったのか振り返ってみます。令和7年の海況は、冬季の2月から春季の5月の水温は平年(過去25年間の平均)より低めで推移しました。一方、夏季に入る6月以降、特に8月中旬から10月上旬は平年と比較してまれにみる高水温となりました(図1)。また、9月の県東部海域の水温は、1971年からの観測史上初めて30℃を超えました。

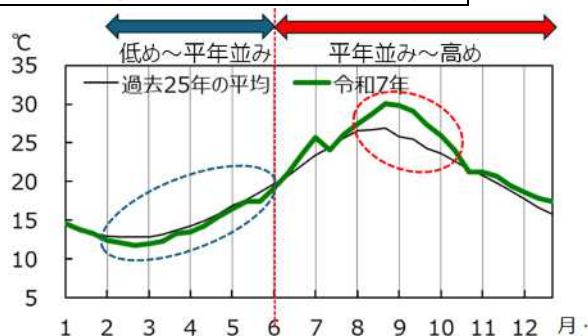


図1 島根県東部海域の水温の動向

これらの原因として、気象庁によると、日本海は気象の影響を受けやすく、春季の低水温は冬季の寒波が続いたことや風が平年より強かったこと^{※1}、夏季以降の高水温は西のチベット高気圧と東の太平洋高気圧が重なる『ダブル高気圧』が発生したこと^{※2}などの見解を示しています。

※1 https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/kaiyo/archive/c_1/jpn_archive_index.html

※2 <https://www.jma.go.jp/jma/press/2509/05b/kentoukai20250905.pdf>

沖底でのウマヅラハギの豊漁(2月～4月)

ウマヅラハギはカワハギの仲間で、名前に「ウマヅラ(馬面)」とあるとおり、馬に似た顔が特徴です(図2)。そんなウマヅラハギですが、令和7年2月～4月にかけて、浜田漁港を根拠地とする沖合底びき網漁業(以下、沖底)で記録的な豊漁となりました。

浜田の沖底で水揚げされたカワハギ類(ウマヅラハギ主体)の漁獲量の推移(図3)をみると、令和6年漁期(令和6年8月16日～令和7年5月31日)のカワハギ類の漁獲量は541トン、平年(令和元年～令和5年漁期平均)の13倍であり、記録が残っている平成5年漁期以降で最高の値となりました。



図2 沖合底びき網漁業により浜田漁港に水揚げされたウマヅラハギ

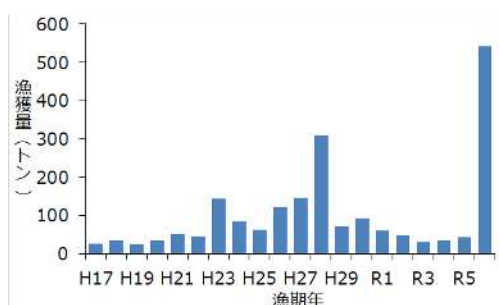


図3 浜田の沖合底びき網漁業におけるカワハギ類の漁獲量の推移

高水温によるさまざまな影響(8月～11月)

島根県の沿岸漁業では、海水温が上昇する夏季(8月頃)に漁獲量が大きく減少する現象があり、「夏枯れ」と呼ばれています。

その後、秋季から冬季にかけて再び漁獲量が回復するのが一般的なパターンであり、特に定置漁業ではこのパターンがよく見られます。しかし、令和7年は例年と異なり、秋季以降、漁獲量はあまり回復しませんでした(図4)。

これは、高水温の影響が続いたためと考えられますが、一方で漁獲量が平年より増加した魚種もありました。細長く槍のように突き出た上あごと大きな背びれが特徴的な「バショウカジキ」と、大きくなるとブリへと出世する「ヒデリコ(小型のブリの地方名)」が例年に比べて多く漁獲されました(図5)。バショウカジキは8月～10月にかけて、9月をピークに多く漁獲され(平年比3.1倍の68トン)、ヒデリコは10月、11月に多く漁獲されました(平年比2.7倍の34トン)。どちらも南方系(暖かい水温を好む種類)の魚であり、夏季～秋季の高水温が両種にとって好適な環境だったのかもしれませんが。

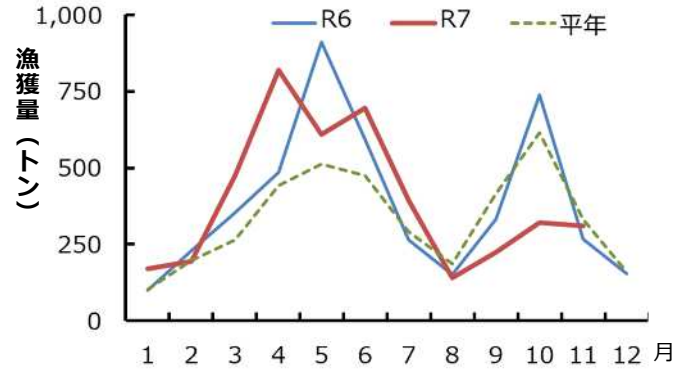


図4 典型的な夏枯れが起こったある大型定置漁業経営体の漁獲動向

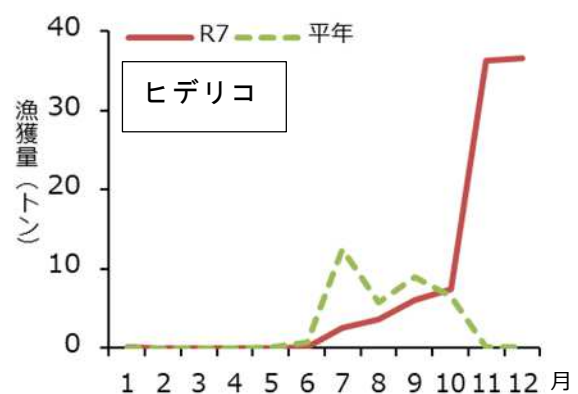
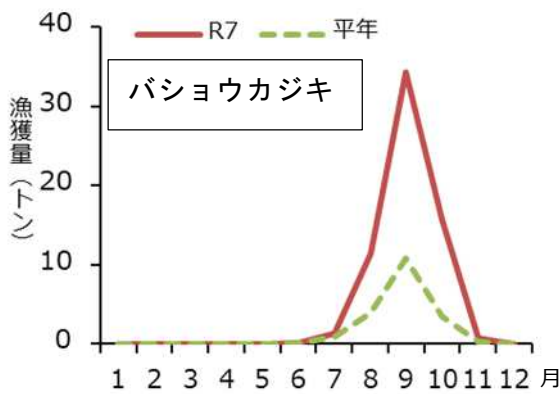


図5 大型定置漁業におけるバショウカジキとヒデリコ(小型のブリ)の漁獲動向

令和7年に獲れた珍しい魚たち

最後に令和7年に島根県内で獲れた珍しい魚を紹介します。



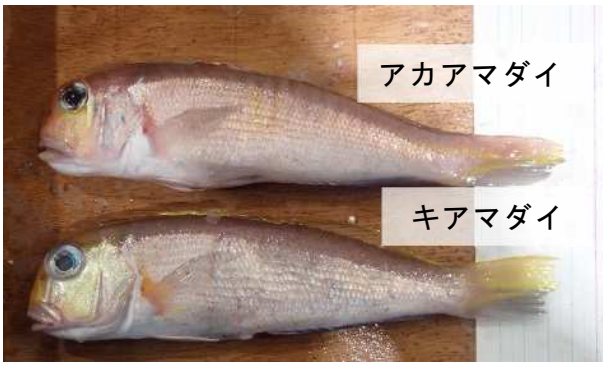
黄金色のヒラメ

令和7年3月12日、小型底びき網漁業にて漁獲。ヒラメ本来の体色である黒褐色ではない体色異常の個体。眼が赤くないことからアルビノではなく、黒色の色素が本来よりも少ない個体と考えられる。



キハツク

令和7年7月23日、島根県浜田市生湯沖にて採捕。インドー西太平洋、日本では佐渡島と相模湾から九州南部にかけての日本海・東シナ海・太平洋沿岸、瀬戸内海および琉球列島に分布し、島根県の定置漁業で漁獲されることがあるが、市場にはほぼ出回らない。



キアマダイ（写真左下）とシロアマダイ（写真右）

キアマダイは令和7年10月30日、小型底びき網漁業にて漁獲され、アカアマダイに混じって出荷。シロアマダイは、沖合底びき網漁業で漁獲され、令和7年10月29日に浜田市場に水揚げ。島根県で水揚げされるアマダイ類は一般的にアカアマダイが多く、キアマダイやシロアマダイの漁獲はまれ。特に、シロアマダイは単価も高く、「幻の高級魚」と呼ばれることもある。



コモンハタ

令和7年12月17日、当センター試験船「島根丸」による底びき試験操業にて採捕。日本では本州中部以南～九州まで分布するが、日本海側の生息数は少ない。「コモン（小紋）」の名の通り、体には小さな斑紋が点在する。



ナガタチカマス

沖合底びき網漁業にて漁獲され、令和7年12月19日に浜田市場に水揚げ。比較的水深が深い場所（主に400m以深）に生息するため漁獲されることは珍しい。塩焼きなどで馴染み深い「アカカマス」とは違う科の魚。標本提供：渡辺鮮魚店

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1
 TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079
 ホームページ: <https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>
 E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp

